

資料 提 供 令和8年1月30日
課 名 健康危機管理課 (感染症・疾病管理センター)
担当 者 片 平
電話(直通) 082-513-3068 (内線) 3068

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]

(令和8年1月解析分)

1 今月のトピックス

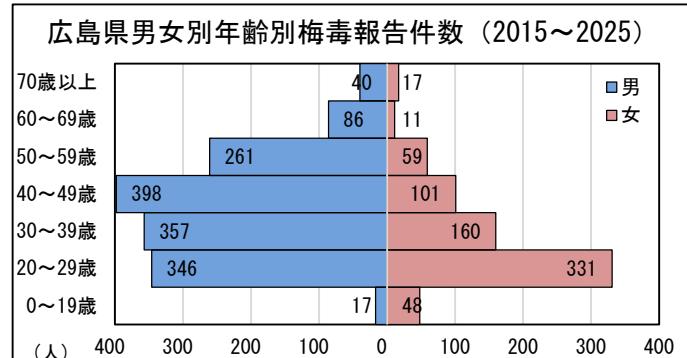
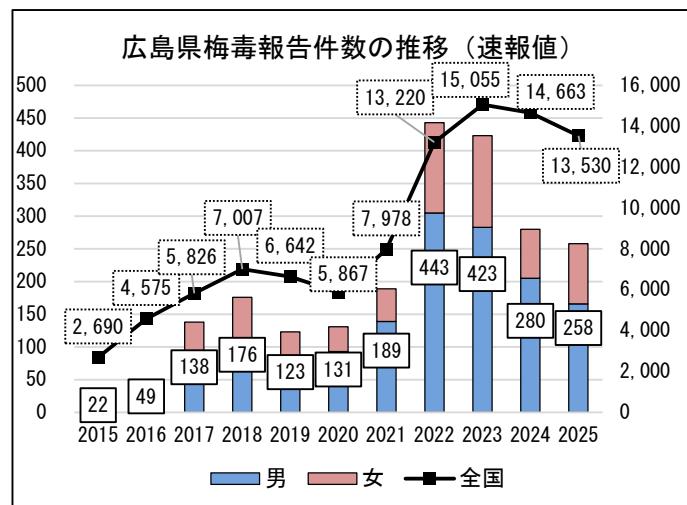
2025年梅毒報告件数（速報値）発生件数は全国で13,530件 広島県は258件

2022年から梅毒の報告件数が全国的に急増し、2025年における全国の梅毒発生報告件数は13,530件（速報値）で、昨年から約1,000件減少していますが、依然として高い水準であり、感染の注意が必要です。

広島県における2025年の1年間の発生報告件数は258件（速報値）で、前年から22件減少しましたが、過去（1999年以来）、4番目に多い件数です。男性では、20歳代から50歳代で、女性では20歳代での報告が多い状況です。

梅毒は、早期に治療すれば完治しますが、放置して進行すると脳や心臓に合併症を引き起こすだけでなく、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）に感染しやすくなることが知られています。また、妊婦においては死産や出生児の神経や骨等に異常をきたす先天梅毒を起こす可能性のある疾患です。そのため、感染が疑われる場合には検査による早期発見・早期治療が重要です。

広島県では、毎月匿名・無料の梅毒検査とHIV検査を実施しています。感染が心配な方、気になる症状がある方は保健所へお電話ください。性感染症に関する相談にも対応しています。



梅毒の症状

【病原体】梅毒トレポネーマ（細菌）

【感染経路】感染部位と粘膜や皮膚の直接の接触（主に性的接触）

【予防方法】コンドームの使用（ただし、コンドームが覆わない部分の皮膚などで、感染の可能性あり）

【症状】感染からの経過時期に応じて症状が異なります（下表参照）。

感染後3週間	感染後3か月	感染後数年
<ul style="list-style-type: none"> 感染部位（陰部、口唇部、肛門等）のしこり 鼠径部のリンパ節腫脹 	<ul style="list-style-type: none"> 手掌や手背、下腿、前腕、背部などを中心に、無痛性の紅斑（バラ疹）が生じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 皮膚や粘膜、骨などにゴムのような腫瘍 心臓、血管、脳などの複数の臓器の病変

県保健所（支所）における梅毒検査（要予約、無料、匿名、即日）

【検査概要】

- 保健所で実施している検査はHIV検査と梅毒検査です。
- TP法（イムノクロマト法）を用いた血液検査で、採血後、約1時間程度で結果が判明します。



広島県 梅毒検査

検索

【検査を受ける時期】

- 正確な判定のためには、感染の可能性のあった日から3か月を経過している必要があります。

【予約方法等】

- 電話により予約できます。各保健所の電話番号は県ホームページをご覧ください。

2 疾患別定点情報 【速報値】

(1) 定点把握(週報)五類感染症

令和7年12月分(令和7年12月1日～令和7年12月28日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
1	急性呼吸器感染症(ARI) ※2	28,648	76.19	-	➡	11 突発性発しん	35	0.15	0.18	➡
2	インフルエンザ ※3	12,500	33.24	5.37	↗	12 ヘルパンギーナ	7	0.03	0.19	
3	新型コロナウイルス感染症(covid-19) ※1	409	1.09	-	↙	13 流行性耳下腺炎	6	0.03	0.06	
4	RSウイルス感染症	201	0.88	0.22	↙	14 急性出血性結膜炎	0	0.00	0.04	
5	咽頭結膜熱	94	0.41	1.01	↗	15 流行性角結膜炎	56	0.74	0.45	↙
6	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	565	2.48	1.04	➡	16 細菌性髓膜炎	0	0.00	0.04	
7	感染性胃腸炎	797	3.50	2.93	➡	17 無菌性髓膜炎	1	0.01	0.04	
8	水痘	53	0.23	0.10	↗	18 マイコプラズマ肺炎	91	1.14	0.02	↙
9	手足口病	30	0.13	0.65	↙	19 クラミジア肺炎 ※4	0	0.00	0.00	
10	伝染性紅斑	118	0.52	0.04	↙	20 感染性胃腸炎(コタウイルス)	0	0.00	0.00	

※1 R5年第19週(5/8～)から五類に変更。※2 咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか2つ以上の症状を呈し、発症から10日以内の急性的な症状であり、医師が感染症を疑う外来症例に該当する患者数を計上(他の定点把握疾患として報告されている患者数(No.2～6及び12)を除く)。※3 烏インフルエンザを除く。※4 オウム病を除く。

(2) 定点把握(月報)五類感染症

令和7年12月分(12月1日～12月31日)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
21	性器クラミジア感染症	62	2.82	2.31	➡	25	メシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	96	4.80	2.83	↗
22	性器ヘルペスウイルス感染症	16	0.73	0.76	➡	26	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	0.00	0.08	
23	尖圭コンジローマ	17	0.77	0.43	↙	27	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0.00	0.01	
24	淋菌感染症	24	1.09	1.00	➡	※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当たり) ※報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。					

発生記号(前月と比較)

急増減疾患！！(定点当たり前月比2倍以上増減)

○急増疾患 なし

○急減疾患 なし

急増減	↑	↑	1:2以上の増減
増減	↗	↙	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↙	1:1.1～1.5の増減
横ばい	➡		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象20疾患、月報対象7疾患)について、県内155の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1、2、3	1～13	14、15	21～24	16～20、25～27	
定点数	37	57	19	22	20	155

3 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類等感染症発生状況

【速報値】

類別	報告数	疾患名 (管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	32	結核(32)〔西部保健所(6)、西部東保健所(2)、東部保健所(6)、北部保健所(1)、広島市保健所(15)、福山市保健所(2)〕
三類	6	腸管出血性大腸菌感染症(6)〔広島市保健所(1)、福山市保健所(5)〕
四類	9	A型肝炎(1)〔広島市保健所(1)〕 マラリア(1)〔西部東保健所(1)〕 レジオネラ症(7)〔西部東保健所(2)、広島市保健所(1)、呉市保健所(1)、福山市保健所(3)〕
五類	86	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症(1)〔西部東保健所(1)〕 急性脳炎(1)〔北部保健所(1)〕 劇症型溶血性レンサ球菌感染症(2)〔広島市保健所(2)〕 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)(2)〔西部保健所(1)、広島市保健所(1)〕 侵襲性肺炎球菌感染症(8)〔西部保健所(1)、東部保健所(2)、広島市保健所(3)、呉市保健所(1)、福山市保健所(1)〕 水痘(入院例)(2)〔広島市保健所(2)〕 梅毒(18)〔西部保健所(2)、西部東保健所(1)、広島市保健所(10)、福山市保健所(5)〕 百日咳(51)〔西部保健所(2)、西部東保健所(5)、東部保健所(3)、広島市保健所(14)、呉市保健所(2)、福山市保健所(25)〕 麻しん(1)〔西部保健所(1)〕